

氏名	三上 博信
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第486号
学位授与年月日	平成30年3月20日
審査委員	主査 教授 柴藤 治
	副査 教授 土屋 美加子
	副査 教授 北垣 一

論文審査の結果の要旨

胃食道逆流症(GERD)の重要な病態として、下部食道括約筋 (LES) 収縮圧の低下や食道運動機能低下に伴う内容物のクリアランス能の低下が知られるが、近年は食道胃接合部 (EGJ) の伸展性の上昇が注目されている。消化管運動機能改善薬は胃や小腸の蠕動運動を亢進することから、食道運動機能を亢進しGERDの病態を改善することが期待されるが、未だ十分な検討はない。申請者は、食道の運動を詳細に評価できる高分解能食道内圧検査 (HRM) に加え、EGJの伸展性を評価できる新規の検査機器 (EndoFLIP) を用いて、作用機序の異なる二種類の消化管運動機能改善薬 (メトクロプラミド、アコチアミド) の食道運動機能への効果を検討した。メトクロプラミドは健常ボランティア9名を対象に、アコチアミドは健常ボランティア9名とGERD患者3名を対象とし、薬剤の投与前後で食道運動機能の評価を行った。メトクロプラミドは食道体部の蠕動運動やLES圧を亢進させたがEGJの伸展性に影響しなかった。アコチアミドは食道蠕動運動やLES圧、EGJの伸展性のいずれに対しても効果はなかった。本研究は、消化管運動機能改善薬の食道運動およびEGJの伸展性への効果について高度の技術を用いて新たな知見を得たもので、これらの薬剤のGERDに対する臨床応用を検討するにあたり重要となるため、博士 (医学) の学位授与に値すると判断した。